

社内の防災対策について

職場の心得

企業は、災害時に社員や来客者を守り、災害から被害を防止するために努力することが義務づけられています。

どの企業でも日頃から防災対策について話し合い、災害に備えましょう。

勤務中に被災した場合、会社にどのような防災グッズを備えておけば、身の安全を守れるのか。

徒歩で帰宅したり会社に宿泊したりする際にあると便利なものは何か。

日頃から個人や職場単位で準備しておけば、いざという時に安心です。

役割とルール

災害の時には、誰がどうするのか、役割を決めましょう。
避難場所の確認や防災訓練を定期的に行いましょう。

■非常用食料や飲み水は、最低3日分を準備！！

災害が発生すると、ライフラインをはじめ、食料などの流通がしばらく途絶えることがあります。

数日間は何とかなる備えを、社内でも行いましょう。

■社員の分担を決めて災害対応マニュアルを作る！！

企業の業種や規模、不特定多数の人が良く出入りするのかどうか、といった事業場に合わせた災害発生への対応マニュアル作りが必要です。

安全対策のポイント

■棚、OA機器、備品の転倒防止！

建物に被害がない場合でも、備品の落下・転倒はパニックを誘い、避難を妨げたり、怪我の原因になります。

■ガラスの飛散防止！

ガラスの落下・飛散は、思わぬ怪我の原因となります。

■停電時の対策！

懐中電灯だけでなく、発電機や、非常用の電灯(非常用電源、非常用照明など)を準備しておきましょう。

■整理整頓！

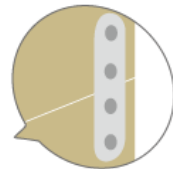
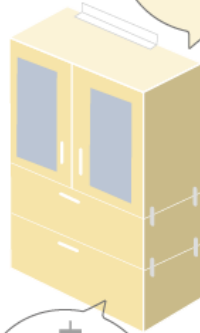
- ・職場の出入口、非常出口の周りに物を置いていないか
- ・コンセントや電源のコードを床にむき出しで置いていないか
- ・棚の上を荷物置き場にしていないか
- ・通路にいらぬ物、余計なものが置いていないか
- ・消火器は所定の場所にあるか、消火器の周りに物が置いていないか
- ・タバコの吸殻はきちんと後始末されているか

事業場内外の安全対策

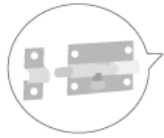
ガラスには飛散防止フィルムを貼る。



上部を固定する



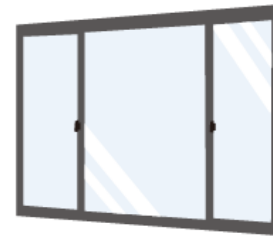
二段式家具は上下を連結する。



引き出し扉にはラッチをつける。



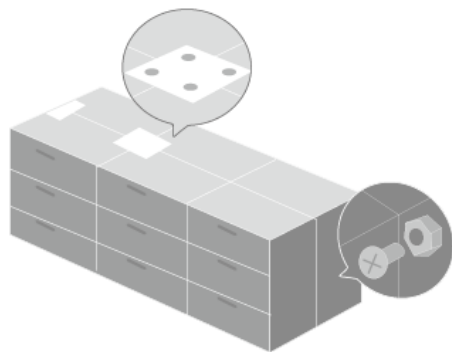
床にアンカーボルトを打ち込む



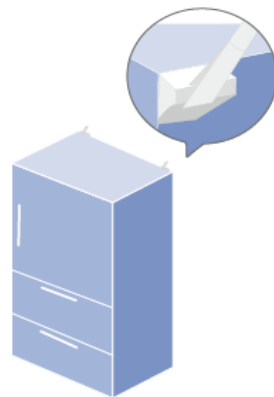
窓ガラスが割れないように、窓のそばにものを置かない。



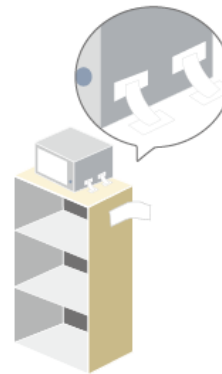
OA機器は落下、移動しないように固定する。



隣の家具と連結しておく



冷蔵庫の上部をベルトで壁に連結する。



電子レンジは台から落ちないように固定し、台も固定する。



出入口、避難路を塞ぐところに家具を置かない。

社員と家族の安全

■家族や社員との連絡方法を決めておこう！

家族や社員の安否確認ができないと、大変気がかりです。災害時伝言ダイヤル「171」を使って家族や社員の安否確認をどのように行うか、ルールを決めましょう。

■自分の安全は、自分で守る！

交通機関の停止に備え、徒歩で帰宅する順路を予め地図で確認しておきましょう。危険箇所なども確認して、帰宅防災マップを作り、職場に置いておくと安心です。

帰宅困難時のポイント

- 徒歩で帰らなければいけなくなった場合に、スニーカー、携帯ラジオがあるとGOOD！
会社のロッカーの片隅に入れておきましょう。
- 帰宅防災マップを買うか、自分で作りましょう。
- 夏場はタオル、冬場はカイロを準備しておきましょう。
- 地震が発生した時の連絡方法や集合場所を家族で確認しておきましょう。

まとめ

■ 非常用物品・防災資器材等を準備しましょう

災害時に初期消火活動や救出救護活動を行うためには、必要な器材を準備し、保管場所を定めて、いつでも使用できるようにしておく必要があります。また、停電や断水等に備えて、非常用照明器具や発動発電機、飲料水や食料(1人3日分を目安)を準備しておきましょう。



■ 防災訓練を実施しましょう

災害発生時に、従業員が混乱することなく、組織だって最適な行動をとれるよう、日頃から実践的な防災訓練を行い、「従業員一人ひとりが何をすべきか」役割を決めて、とるべき行動を体で覚えておくことが必要です。防災訓練は、防災意識を持たせ、持続させるために、年間に数回実施しましょう。



■ 地域との協力関係の確立

事業所は、地域の強力な構成員です。火災の拡大防止や負傷者の救出・救護など、被害地域に対する貢献策を検討しておきましょう。また、いざという時のために地域の住民組織(町会)や自主防災組織などの訓練に職場単位で積極的に参加するなど、日頃から地域との結びつきを深めておきましょう。



オフィスにおける防災対策は、職場で対応しておくべきことと、個人で準備をしておいたほうが良いことがあります。

まずは、職場での災害に対する対応方法を確認し、その上で、個人がとるべき対応、行動を確認すると良いでしょう。

また、定期的に防災訓練を実施し、非常事態に備えましょう。

それぞれが協力しあって、最小限の被害で済ませることができるように日頃から備えておきましょう。

参考資料

事業所防災計画表(東京消防庁)

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/drs/ss/133.pdf>